

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの生活研究所 めばえ学園		
○保護者評価実施期間	2026年2月5日		～ 2026年3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年2月5日		～ 2026年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2026年2月25日
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月5日		～
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	現状、利用者は全員めばえ学園の療育利用者でもあり、めばえ学園での支援の状況を踏まえ、子どもや保護者への理解と必要な配慮や支援について、訪問先と情報共有し、連携していく体制を取りやすい状況にあります。	・子どもや保護者のニーズを適切に捉え、訪問先との情報共有と共通理解の形成に努めています。 ・訪問先の状況や考え方を尊重し、納得性のある受け入れやすい説明や助言等の支援に努めています。	更に、お子さんに必要な支援や配慮について、訪問先の状況においても、取り入れやすい方法や支援のアイデアについて、助言の幅を広げていけるよう、努めていきます。
2	お子さんや保護者のニーズに合った支援により、保護者の安心につながっています。	・訪問支援前の確認と、訪問支援終了後の報告、フィードバックを丁寧に行い、保護者との情報共有に努めています。	引き続き、インクルーシブな環境において、子どもや保護者が安心できるような必要な配慮や支援を得ることができ、より良い子どもの成長につながっていくよう、努めていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	卒園時の就学先や学童クラブ等、訪問先が広がっている中で、訪問先施設の状況や担当者の意向を踏まえた、取り入れやすい支援の提案や助言ができるよう、さらなる専門性や柔軟性を高めていく必要があると感じます。		訪問先施設になるべく負担にならないよう配慮するとともに、良好な連携関係の維持に努めます。子どもや保護者の満足だけでなく、訪問先施設にとっても、有用な支援を提供していけるよう努めます。
2			
3			